

四 久志村沿岸

1. 調査場所及び期間

場 所 久志村濱裏、江間、安部地先

期 間 1956年6月7日～9日 3日間

調査方法 海路支及び漁民部落より聞取調査

2. 生産調査

| 種 別 | 産 出 期 | 年間生産高 及び個数 | 利用細目の活用 | 備 考 |
|------|--------|------------------------|----------------------|--|
| 海人草 | 6月～6月頃 | 製 品 150斤～300斤位 | 島内消費 | 大浦湾内で産出より養殖されたものが現在あまり手につくしてない。年産生産高予想 5,000斤～10,000斤程度 |
| 甲いか | 7月～6月頃 | 15斤～30斤位 | 自家用、販売用 | 年間生産高予想高 同上 |
| たこ | 同 年 | 1,000斤位 | 同 上 | 同 上 |
| えび | 6 月 頃 | 40斤位 | 加納親先用 | |
| なまこ | 6月～7月 | 6月現在くりか 一隻当り7斤位 | 利用者なし | 地元漁業者の得意による。 |
| ぼんりに | 7月～9月 | 1952年を前年標準 900個位 | 1954年岩江磯岸 の下魚一時加工 | 久志村部落にて一時養殖された。現在部落民宮城氏により計画中。 |
| 貝 類 | 同 年 | 6月現在くりか製 当り50～60斤程度 | 貝肉 自家用 貝殻 販売用 | 主に玉貝、たかせひろせ貝等 |

3. 調査地区内における水産加工業の有無

海産加工処理場 久志村久志小

1964年岩岩江磯業により一時設置、現在宮城氏により計画中。

4. 調査経過

海人草は戦前から大浦湾一帯に養殖され、現在でも村組合により該地先に養殖されているが殆ど保護対策がなされない状態と思はれた。尚、うに資源についても計画的に行えば、採取漁場が近く又処理加工適地としても安部、茄藤の兩部落は好条件と備えた所で「うに」類の成熟期を探究すれば、生産企業も可能なことと思われた。